

教 科	国語	科 目	文学国語	単位数	2
学 年	3年	教科書	新編 文学国語（大修館書店）		
学 科	全学科	副教材	新編 文学国語 学習ノート（大修館書店） 常用漢字 ダブルクリア五訂版（尚文出版）		

学習目標	適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 心を見つめる クルミの小部屋 2 古典の世界Ⅳ 桐壺	・筆者の家族観や、家族間の心情の機微を読み取る。 ・文体の特徴や比喩の効果について考える。 ・登場人物の設定や描写のしかたをとらえ、読みを深める。
2	3 文化を感じる 共感と驚異 4 短歌・俳句に親しむ 短歌 5 古典の世界Ⅴ 四面楚歌	・筆者の考える、短歌が人を感動させるための方法を読み取る。 ・引用された作品を読み、筆者の主張を確かめる。 ・形式や表現に注意して短歌を読み味わう。 ・漢文の表現に着目しながら、登場人物の心情を読み取るなど描かれ方をとらえ、読みを深める。
3	6 小説を味わう 山椒魚 7 名作を読む こころ	・登場する生き物たちの性格や心理を読み取る。 ・話のおもしろさと、そこに込められた寓意を読み味わう。 ・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・優れた表現に触れ、読み味わう。
課題	①予習・復習…教科書、課題ノートを用いて予習・復習する。 ②夏休み課題…読書感想文、夏休み課題ノートに取り組む。 ③冬休み課題…冬休み課題ノートに取り組む。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 心を見つめる クルミの小部屋	・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。	・文体の特徴や比喩の効果に注目しながら本文を読み味わい、筆者の心情を読み取ろうとしている。
評価方法	・ノートの記述内容 ・ワークシート ・定期テスト	・小テスト ・定期テスト	・観察 ・発言内容
2 古典の世界Ⅳ 桐壺	・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。	・作品に興味をもち、登場人物の設定や描写のしかたをとらえようとしている。
評価方法	・ノートの記述内容 ・ワークシート ・定期テスト	・小テスト ・定期テスト	・観察 ・発言内容

3 文化を感じる 共感と驚異	・ 文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	・ 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	・ 引用された作品に興味をもち、筆者の考えを読み取ったり、解釈を深めたりしようとしている。
評価方法	・ ノートの記述内容 ・ ワークシート ・ 定期テスト	・ 小テスト ・ 定期テスト	・ 観察 ・ 発言内容
4 短歌・俳句に 親しむ 短歌	・ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	・ 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	・ さまざまな小説を読むことに興味をもち、構成や表現の工夫を読み取ろうとしている。
評価方法	・ ノートの記述内容 ・ ワークシート ・ 定期テスト	・ 小テスト ・ 定期テスト	・ 観察 ・ 発言内容
5 古典の世界 V 四面楚歌	・ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	・ 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかたをふまえ、解釈の多様性について考察している。	・ 短歌を読むことに興味をもち、その形式や表現に注意してそれぞれの作品を読み味わおうとしている。
評価方法	・ ノートの記述内容 ・ ワークシート ・ 定期テスト	・ 小テスト ・ 定期テスト	・ 観察 ・ 発言内容
6 小説を味わう 山椒魚	・ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	・ 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかたをふまえ、解釈の多様性について考察している。	・ 作品に興味をもち、話のおもしろさや、そこに込められた寓意を読み味わおうとしている。
評価方法	・ ノートの記述内容 ・ ワークシート ・ 定期テスト	・ 小テスト ・ 定期テスト	・ 観察 ・ 発言内容
7 名作を読む ところ	・ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	・ 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	・ 作品に興味をもち、登場人物の生き方から自分自身の生き方に関する考えを深めようとしている。
評価方法	・ ノートの記述内容 ・ ワークシート ・ 定期テスト	・ 小テスト ・ 定期テスト	・ 観察 ・ 発言内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	公民	科 目	政治経済	単位数	2
学 年	3	教科書	高等学校 政治・経済（第一学習社）		
学 科	全学科	副教材	なし		

学習目標	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり、解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	日本国憲法と現代政治のあり方	- 政治と法の意義や機能を理解し、法の支配と立憲主義について考えます。 - 日本の司法、立法と行政のあり方を世界の政治体制と比較し、議会制民主主義について多角的・多面的に考察します。 - 日本国憲法について学び、基本的人権や、権利と義務など身近な問題について考え、主体的な解決を目指します。
2	市場経済の機能と限界	- 金融のしくみと働きを学び、金融を通じた経済の流れの理解を目指します。 - 市場経済の機能と限界について考察し、持続可能な財政、税制のあり方を主体的に考察し、解決していく視点を身に付けます。
3	グローバル化する国際社会の諸課題	21世紀以降の国際社会の動向から、国際法の果たす役割について理解します。 - 相互関係が深まる国際経済の特質について、世界貿易の現状から多角的・多面的に考察し、表現します。 - 国際経済において求められる日本の役割について、課題を見つけ、主体的な姿勢で解決を目指します。
課題	①予習・復習…教科書を用いて予習・復習をします。 ②夏休み課題…経済の成長とイノベーションについて、レポートを作成します。 ③冬休み課題…グローバル化にともなう人々の生活や変容について、レポートを作成します。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本国憲法と現代政治のあり方	政治や政治権力の意味とその役割について理解している。	法の意義と機能について多角的・多面的に考察し、表現している。	「日本国憲法」と現代政治のあり方についてよりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	- 小テスト - 定期考査	- 定期考査 - 提出物の内容	- 授業態度 - 提出物の内容
市場経済と財政・金融・福祉	三つの経済活動の主体と、経済循環における役割について理解している。	持続可能な財政のあり方を多面的・多角的に考察し表現している	「金融を通じた経済活動の活性化」について、よりよい社会の実現を視野に現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

			うとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・提出物の内容	・授業態度 ・提出物の内容
グローバル化する国際社会の諸課題	平和主義の理念と日本の防衛政策の関連について、理解している。	現在の世界と日本の貿易の現状と動向について、多面的に考察し、表現している。	「国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・提出物の内容	・授業態度 ・提出物の内容
内容のまとまりごとに学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います 各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	数学	科 目	数学実践	単位数	1
学 年	3	教科書	数学実践（伊予農業高校）		
学 科	全学科	副教材	なし		

学習目標	日常生活において必要とされる数学的な考え方を、問題演習を通して基礎・基本から学習し、社会人としてふさわしい学力を身に付けさせる。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 比と歩合 2 数と式の計算	1 比と歩合について学習します。 2 四則演算、無理数の計算を早く正確にする力を養います。
2	3 1次方程式と1次関数 4 図形	3 1次方程式や連立方程式を解きます。 4 様々な図形の面積や体積を求めます。
3	5 SPI 頻出問題	5 条件を正しく理解し、順序立てて正しく推論する方法を理解します。
課題	① 予習や復習を行い、教科書や問題集を活用し、理解の定着に努めます。 ② 夏休み課題は、基礎力診断テストの課題を用い、1学期までの内容の復習を行います。 ③ 冬休み課題は、基礎力診断テストの課題を用い、2学期までの内容の復習を行います。 。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比と歩合	・比と歩合を求めることができる。	・仕事算、濃度算についての問題が理解できる。	・比と歩合について意欲的に考えようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・提出物 ・定期考査	・振り返りシートの記述 ・授業態度
数と式の計算	・正負の数の四則演算ができる。	・無理数の計算を早く正確にすることができる。	・計算問題を意欲的に考えようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・提出物 ・定期考査	・振り返りシートの記述 ・授業態度
1次方程式と1次関数	・1次方程式が解ける。 ・1次関数のグラフがかけられる。	・関数と方程式の関係を理解できる。	・関数の問題について意欲的に考えようとしている。

評価方法	・小テスト ・定期考査	・提出物 ・定期考査	・振り返りシートの記述 ・授業態度
図形	・様々な図形の角度について求めることができる。	・様々な図形の面積を求めることができる。	・図形の問題について意欲的に考えようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・提出物 ・定期考査	・振り返りシートの記述 ・授業態度
SPI頻出問題	・単位変換について理解できる。	・推論から正しい答えを求めることができる。	・SPI 問題について意欲的に考えようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・提出物 ・定期考査	・振り返りシートの記述 ・授業態度
内容のまとめりに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。 各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	保健体育	科 目	体育	単位数	3
学 年	3	教科書	現代高等保健体育（大修館書店）		
学 科	全学科	副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）		

学習目標	① 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにする。 ② 課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③ 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 体づくり運動	・体ほぐしの運動を通して、体を動かすことの楽しさや心地よさを味わいます。
	2 球技	・種目の特性を理解し、ゲームができるようにします。（ゴール型、ネット型、ベースボール型）
	3 体育理論	・スポーツにおける技能や技術、戦術について理解します。
2	4 球技	・種目の特性を理解し、ゲームができるようにします（ゴール型、ネット型、ベースボール型）
	5 体育理論	・技能の上達過程と練習及び効果的な動きのメカニズムについて理解します。
3	6 球技	・個人やチームの能力に応じて作戦を立て、勝敗を競うことの楽しさや喜びを味わいます。（ゴール型、ネット型、ベースボール型）
課題	① 見学者は見学カードに必要事項を記入して、レポートを作成して提出します。 ② 長期休業中は、授業で学習した内容を生かして体力の維持・向上に努めます。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体づくり運動	自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。	生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案している。	体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	学習カード 観察	学習カード 観察	学習カード 観察
球技	ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、言ったり書き出したりしている。（共通） シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に	選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 練習やゲームを行う場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案している。	球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 フェアなプレイを大切にしようとしている。 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

	移動できる。 (ゴール型) サービスでは、ボールに変化をつけて打つことができ、ボールを相手側のコートを守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 (ネット型) ボールの高さやコースなどにタイミングを合わせてボールを捉えることができ、打球のバウンドやコースに応じて、タイミングを合わせてボールを捕ることができる。 (ベースボール型)		
評価方法	学習カード 観察	学習カード 観察	学習カード 観察
体育理論	豊かなスポーツライフの設計の仕方について言ったり書き出したりしている。	豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、自己の提案を他者に伝えている。	豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	確認テスト 観察	確認テスト 観察	観察
内容のまとめりとともに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	英語	科 目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2
学 年	3	教科書	All Aboard! English Communication Ⅱ（東京書籍）		
学 科	全学科	副教材	VALUE 1000（数研出版） Listening Pilot Level 2（第一学習社）		

学習目標	1. 必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりして、相手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 3. 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができる。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	Lesson 6 Lesson 7	・ if 節の理解をもとに、地元の有名な場所やものについて、考えや情報などを伝え合う技能を身に付けます。 ・ 世界の人々と交流する方法について学習し、関係副詞 where、when を用いて、調べた事柄を伝え合う技術を学びます。
2	Lesson 8 Lesson 9	・ 知覚動詞を用いて、自然界のデザインをヒントにした製品についての記事を作成し、発表する技能を身に付けます。 ・ 雑誌記事を通して児童労働をその解決策について考え、使役動詞を用いた文を理解し、調べたことを紹介します。
3	Lesson 10	・ 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習し、人を助ける職業について、分詞構文を活用して情報や考えなどを英語で説明します。
課題	① 必要な情報から相手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉える力を養う。 ② 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合う技能を身に付ける。 ③ 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして伝える力を養う。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Lesson 6 Seeds for Future Generations	・ 動詞の目的語になる if 節を用いた文の形・意味を理解している。 ・ 京野菜について学び、グループ発表を聞き取り、書かれた記事を読んで情報などを伝え合う技能を身に付けている。	・ 地元の有名な場所やものについて自分で調べた事柄を用いてポスターを作成し、それを使って整理して話している。	・ 高校生の部活動による京野菜についてのグループ発表や、ポスターの記事の概要を捉え、地元の有名な場所やものを紹介するポスターを作成しようとする。
評価方法	・ 小テスト ・ プリント ・ 定期考査	・ 言語活動への取り組み状況 ・ 定期考査	・ 課題の提出状況 ・ 発表内容 ・ 授業中の取り組み状況

Lesson 7 Over the Wall	・関係副詞 where、when を用いた文の形・意味を理解している。 ・関係副詞 where、when の理解をもとに、世界中で壁画を描く活動についての話や、外国の人と交流する方法についての対話の内容を聞き取ったり読み取ったりする技能を身に付けている。	・世界中で壁画を描く活動について書かれた話の概要を捉えている。 ・外国の人々と交流する方法について自分で調べた事柄を用いて、外国の人々と交流することについて情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝え合っている。 ・世界の人々と交流する方法について、英語で述べることができる。	・世界中で壁画を描く活動について学んだり、自分自身を変えることや、外国の人々と交流する方法について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを整理して話そうとしたりしている。
評価方法	・小テスト ・プリント ・定期考査	・言語活動への取り組み状況 ・定期考査	・課題の提出状況 ・発表内容 ・授業中の取り組み状況
Lesson 8 Inspiration From Nature	・知覚動詞の理解をもとに、生物模倣についてのオンライン講演の授業や、何かを見て興奮したことについての対話の内容を聞き取る技能を身に付けている。 ・自然界のデザインをヒントに開発された製品について自分で調べた事柄を整理・理解している。	・痛くない注射針について話される対話や自然界のデザインをヒントに開発された製品についてのスピーチの概要を捉えている。 ・聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分で調べた事柄を用いて紹介記事を作成し、それを使って整理して話している。	・生物模倣について学び、自然界のデザインをヒントに開発された製品について自分で調べた事柄を用いて、その紹介記事を書こうとしている。 ・痛くない注射針について書かれた記事を読んで、情報などを伝え合おうとしている。
評価方法	・小テスト ・プリント ・定期考査	・言語活動への取り組み状況 ・定期考査	・課題の提出状況 ・発表内容 ・授業中の取り組み状況
Lesson 9 The Bitter Truth Behind Chocolate	・使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。 ・チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、調べた事柄を整理・理解したりしている。	・チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。	・チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。 ・社会的な問題について、英語で意見を述べることができる。
評価方法	・小テスト ・プリント ・定期考査	・言語活動への取り組み状況 ・定期考査	・課題の提出状況 ・発表内容 ・授業中の取り組み状況

Lesson 10 Fighting Angel	・分詞構文を用いた文の形・意味を理解している。 ・ナイチンゲールの生涯について学び、人を助ける職業について自分で調べた事柄を整理・理解し、話して伝え合う技能を身に付けている。 ・自分で調べた事柄を用いて、好きな物語を紹介する文を書く技能を身に付けている。	・医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、人を助ける職業について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。	・ナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について読んだり聞いたりしたことを活用しながら、人を助ける職業について相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。
評価方法	・小テスト ・プリント ・定期考査	・言語活動への取り組み状況 ・定期考査	・課題の提出状況 ・発表内容 ・授業中の取り組み状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	家庭総合	単位数	2
学 年	3	教科書	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）		
学 科	園芸流通科・特用林産科	副教材	家庭科ノート（愛媛県高等学校家庭科研究会） 調理実習ノート基礎編（愛媛県高等学校家庭科研究会）		

学習目標	① 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付ける。 ② 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭・地域の生活向上を図ろうとする実践的な程度を養う。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 子どもと共に育つ 家庭科の学び	・青年期の責任と命の誕生について学びます。 ・乳幼児期の心身の発達について学びます。 ・親の役割と保育について考えます。 ・青年期の食生活の課題について考えます。 ・子どもを取り巻く保育環境・社会環境について考えます。 ・子どもの権利と福祉や子育て支援について学びます。 ・ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解します。
2	2 食生活をつくる①	・調理の基礎的な知識や技術を身に付けます。 ・栄養素の機能や食品の特徴を学びます。 ・食品の選択と衛生について学び、安全な食生活を考えます。 ・調理実習に取り組みます。 ・自分と家族の食生活を計画・管理できるよう学びます。 ・日本と世界の食文化について学びます。 ・調理実習に取り組みます。
3	2 食生活をつくる②	・これからの食生活について考えます。 ・調理実習に取り組みます。
課題	① 通常授業時の課題： プリント・ノート、小テスト ② 夏季休業中の課題： ホームプロジェクト（家庭生活に関する問題解決学習） ③ 冬季休業中の課題： 生活に関するレポート、プリント	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 子どもと共に育つ	・親の役割と保育について理解している。 ・乳幼児期の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化について理解している。 ・子育て支援、子どもを取り巻く社会環境の変化や課題、子どもの福祉	・発達段階に応じた親の働きかけについて課題を見出し、解決する力を身に付けている。 ・子どもが健やかに育つ社会について課題を見出し、解決する力を身に付けている。 ・集団保育の地域や社会	・青年期の責任とは何か考えようとしている。 ・子どもの発達に応じて適切な関わり方を考えようとしている。 ・子どもを取り巻く社会的課題に関心を持ち、その解決に向けて、生活を工夫・創造し、実践し

	について理解している。 ・子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。	との関わり方について課題を見出し、解決する力を身に付けている。	ようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査 ・実習への取組状況	・ノート・プリント記述内容 ・定期考査	・授業への取組状況 ・ノート・プリント記述内容 ・実習への取組状況
家庭科の学び	・ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解している。	・生活上の課題について課題を見出し、解決する力を身に付けている。	・ホームプロジェクトを通して、生活を工夫・創造し、実践しようとしている。
評価方法	・ノート記述内容 ・定期考査	・ホームプロジェクトへの取組状況	・ホームプロジェクトへの取組状況
2 食生活をつくる	・ライフステージの特徴や課題に着目し、健康や環境に配慮した食生活、栄養の特徴、食品の栄養的性質について理解している。 ・食品の調理上の性質や食品衛生、おいしさの構成要素について科学的に理解している。 ・食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生など、食と人との関わりについて理解している。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	・健康に配慮した自己と家族の食事について課題を見出し、解決する力を身に付けている。 ・安全で衛生的な食生活を送るために食品の選び方や保存方法について課題を見出し、解決する力を身に付けている。 ・日本の食文化の継承・創造や環境に配慮した食生活について課題を見出し、解決する力を身に付けている。	・自分や家族が健康に過ごせるように食生活に役立つことを考えようとしている。 ・日本の食文化の特徴に関心を持ち、文化継承について考えようとしている。 ・食生活を取り巻く課題に関心を持ち、その解決に向けて、生活を工夫・創造し、実践しようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査 ・実習への取組状況	・ノート・プリント記述内容 ・定期考査	・授業への取組状況 ・ノート・プリント記述内容 ・実習への取組状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	国語	科 目	論理国語	単位数	2
学 年	3	教科書	新編論理国語（東京書籍）		
学 科	全学科(選択)	副教材	新編論理国語 学習課題ノート（東京書籍）		

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 最初のペンギン 2 豊かさと生物多様性	・筆者の考えを読み取り、要旨を把握することを学びます。 ・「論理的」とはどういうことか、文章の論理的構造を捉えるために必要なことは何かを学びます。
2	1 カフェの開店準備 2 科学的「発見」とは	・文章の種類を踏まえて内容や構成、論点を理解します。 ・具体例を通して多面的・多角的な視点の考え方について学びます。
3	1 もう一つの知性 2 未来のありか	・筆者の問題提起とそれに対する主張が書かれている部分を把握し、文章の構成について理解します。 ・「未来」についての作者の考えを理解し、自分の考える「未来」について話し合い、自分の生き方を考えます。
課題	① 予習・復習…教科書を用いて予習・復習をします。 ② 夏休み課題…課題帳を用いて基礎学力を養成します。 ③ 冬休み課題…課題帳を用いて基礎学力を養成します。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
最初のペンギン	・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。	・文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、要旨を把握している。	・筆者の考えを捉え、人間の有限性、創造性について考えようとしている。
評価方法	・ノートの記述内容 ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容
豊かさと生物多様性	・言葉には言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。	・内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握している。	・筆者の考える学ぶことの根拠や意味について理解している。
評価方法	・ノートの記述内容 ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容

カフェの開店準備	・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。	・文章の内容や解釈を理解し、新たな観点から自分の考えを深めている。	・筆者の考えを読み取り、筆者の考える「習慣化」を理解しようとしている。
評価方法	・ノートの記事内容 ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容
科学的「発見」とは	・必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	・論理の展開を捉えて筆者の考えを理解し、人間の思考について深く掘り下げようとしている。
評価方法	・ノートの記事内容 ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容
もう一つの知性	・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、・多角的な視点から評価している。	・文章の論理展開や提示された資料をもとに筆者の主張を的確に理解しようとしている。
評価方法	・ノートの記事内容 ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容
未来のありか	・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	・文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	・筆者の立場に基づく考えを、理解し、「未来」の生き方について考えようとしている。
評価方法	・ノートの記事内容 ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	商 業	科 目	簿 記	教 科	商 業
学 年	3	教科書	新簿記 新訂版（実教出版）		
学 科	生工・園流・食化・生活・特林	副教材	反復式 学習と検定 簿記問題集 全商3級・2級新訂版（実教出版）		

学習目標	① 企業における取引を、合理的・能率的に記帳する知識と技術を身に付ける。 ② 簿記の基本的な仕組みについて理解を深める。 ③ ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育てます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 伝票の利用	・証ひょう・伝票の意味とその役割を理解させる。
	2 会計ソフトウェアの活用	・3伝票を用いた場合の起票や集計方法のルールを理解させる。 ・取引の記帳に会計ソフトウェアを活用することによる利点を理解させる。 ・会計ソフトウェアと伝票・証ひょうとの関りを明らかにし、伝票・証ひょうから会計ソフトウェアに取引を入力する方法に習熟させる。
	3 特殊な手形の取引	・手形の裏書譲渡の意味を明らかにし、その記帳方法を理解させる。 ・手形の割引の意味を明らかにし、その記帳方法を理解させる。 ・手形の書き換えの意味を明らかにし、その記帳方法を理解させる。
2	4 有価証券の取引	・有価証券の意味と種類を明らかにし、有価証券の取得・売却の記帳方法を理解させる。
	5 本支店会計	・支店会計の独立の意味を理解させ、本支店間の取引の意味とその記帳方法を理解させる。
	6 決算（その2）	・費用・収益の繰り延べ・見越しの意味とそれぞれの記帳方法を理解させ、習熟をはかる。 ・有価証券の評価、減価償却費の間接法と定率法、郵便切手などの未使用分の記帳方法などを理解させる。
3	7 株式会社の取引	・株式会社の設立、株式の発行に関する取引について理解させる。 ・純利益の計上、剰余金の配当と処分の記帳について理解させる。
課題	・夏休みの課題 ・冬休みの課題 ・検定模擬問題	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 伝票の利用	・基本的な伝票の記帳・集計方法を理解している。	・入金取引・出金取引・その他の取引にどの伝票を用いるかの判断を通じて、記帳の合理化を考えることができる。	・伝票による取引の記帳法と集計に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしている。
評価方法	・問題集 ・小テスト	・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・授業への取組

	・定期考査		・プリントの記述内容
2 会計ソフトウェアの活用	・証ひょうや伝票から仕訳をすることができる。	・会計ソフトウェアの活用方法について考察し、記帳の合理化を達成する方法を考えることができる。	・会計ソフトウェアの活用に関心を高め、その運用方法について積極的に学ぼうとしている。
評価方法	・問題集 ・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・授業への取組 ・プリントの記述内容
3 特殊な手形の取引	・手形の裏書き、割引、書き換えと不渡りの仕訳をすることができる。	・形裏書きと割引、書き換えと不渡りおよび営業活動以外でやり取りされる記帳方法を考えることができる。	・手形裏書きと割引、書き換えと不渡りおよび営業活動以外でやり取りされる記帳方法について、自ら学び帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	・問題集 ・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・授業への取組 ・プリントの記述内容
4 有価証券の取引	・有価証券の意味と種類、および取得や売却時の仕訳ができる。	・有価証券に関する記帳方法から、有価証券の利点を考えることができる。	・有価証券の意味と種類、および取得時や売却時の記帳方法について、自ら学び帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	・問題集 ・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・授業への取組 ・プリントの記述内容
5 本支店会計	・本支店会計の意味を理解し、仕訳をすることができる。	・本支店会計の記帳方法から、本支店間の取引の流れを理解し、合理的な取引を考察できる。	・本支店間の記帳方法について、自ら学び帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	・問題集 ・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・授業への取組 ・プリントの記述内容
6 決算（その2）	・決算整理仕訳および、貸借対照表や損益計算書の作成ができる。	・作成した諸帳簿から取引の流れや、合理的な記帳方法について考えることができる。	・決算整理仕訳と財務諸表の作成について、自ら学び帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	・問題集 ・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・授業への取組 ・プリントの記述内容
7 株式会社の取引	・株式会社の設立と株式の発行について仕訳ができる。	・株式会社の財務諸表の作成について、自らの思考を深め、適切に作成できる。	・個人企業と株式会社の会計処理や財務諸表の違いについて関心を持ち、自ら進んで調べる態度を示している。

評価方法	・問題集 ・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・授業への取組 ・プリントの記述内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います、学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	英語	科 目	論理・表現 I	単位数	2
学 年	3	教科書	Revised Big Dipper English Logic and Expression I (数研出版)		
学 科	全学科（選択）	副教材	VALUE 1000（数研出版）		

学習目標	話すこと・書くことを中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい	
1	Part 1: Lesson 1 ～ 7 Part 2: Lesson 1 ～ 6	Part 1 Lesson 1 英語の主語の扱い Lesson 3 名詞の数 Lesson 5 時制（現在・過去） Lesson 7 完了形 Part 2 Lesson 1 勧誘・提案 Lesson 3 確認・訂正 Lesson 5 義務・必要	Lesson 2 動詞 Lesson 4 be 動詞 Lesson 6 未来時制 Lesson 2 依頼・理由 Lesson 4 心配・助言 Lesson 6 期待・確信
2	Part 1: Lesson 8 ～ 17 Part 2: Lesson 6 ～ 12	Part 1 Lesson 8 助動詞 Lesson 10 第2・第3文型 Lesson 12 不定詞の用法 Lesson 14 不定詞の用法 Lesson 16 比較表現 Part 2 Lesson 7 謝罪 Lesson 9 感想 Lesson 11 願望・目的	Lesson 9 助動詞2 Lesson 11 過去分詞形 Lesson 13 不定詞の用法 Lesson 15 受動態 Lesson 17 比較表現 Lesson 8 計画・予定 Lesson 10 程度・結果 Lesson 12 同情・励まし
3	Part 1: Lesson 18 ～ 21 Part 2: Lesson 13 ～ 14	Part 1 Lesson 18 関係代名詞 Lesson 20 仮定法 Part 2 Lesson 13 感謝	Lesson 19 関係副詞 Lesson 21 節 Lesson 14 賛成・反対
課題	① 必要な情報から相手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じてとらえる力を養う。 ② 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合う技能を身に付ける。 ③ 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意し、話したり書いたりして伝える力を養う。		

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	- 英語の特徴やルールに関する事項を理解している。 - コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文などを聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。 定期考査の配点基準 約 50%	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。 定期考査の配点基準 約 50%	- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されていることを聞こうとしている。 - 身に付けた知識や技能を用いて、積極的にコミュニケーションを取ろうという姿勢を示している。
評価方法	- 小テスト - プリント - 定期考査	- 言語活動への取り組み - 定期考査	- 課題の提出状況 - 発表内容 - 授業中の取り組み状況
2 学期	- 英語の特徴やルールに関する事項を理解している。 - コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文などを聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。 定期考査の配点基準 約 50%	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。 定期考査の配点基準 約 50%	- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されていることを聞こうとしている。 - 身に付けた知識や技能を用いて、積極的にコミュニケーションを取ろうという姿勢を示している。
評価方法	- 小テスト - プリント - 定期考査	- 言語活動への取り組み - 定期考査	- 課題の提出状況 - 発表内容 - 授業中の取り組み状況
3 学期	- 英語の特徴やルールに関する事項を理解している。 - コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文などを聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。 定期考査の配点基準 約 50%	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。 定期考査の配点基準 約 50%	- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されていることを聞こうとしている。 - 身に付けた知識や技能を用いて、積極的にコミュニケーションを取ろうという姿勢を示している。
評価方法	- 小テスト - プリント - 定期考査	- 言語活動への取り組み - 定期考査	- 課題の提出状況 - 発表内容 - 授業中の取り組み状況

内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ	単位数	4
学 年	3	教科書	高校数学Ⅱ（実教出版）		
学 科	生工・園流・環開 食化・特林（選択）	副教材	高校サブノート数学Ⅱ（実教出版）		

学習目標	① 図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けます。
	② 論理的に考察する力や問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養います。
	③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度や創造性の基礎を養います。

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 方程式・式と証明	・ 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張し、2次方程式を解きます
	2 図形と方程式	・ 座標や式を用いて、点や直線の基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現します。
2	3 三角関数	・ 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の性質について理解します。
	4 指数関数・対数関数	・ 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにします。
3	5 微分法と積分法	・ 微分の考えについて理解します。 ・ 積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにします。
課題	① 予習や復習を行い、教科書やワークシートを活用し、理解の定着に努めます。 ② 夏休み課題は、1学期復習プリントを活用し、1学期の内容の復習をします。 ③ 冬休み課題は、2学期復習プリントを活用し、2学期の内容の復習をします。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
方程式・式と証明	・ 整式の除法の計算ができる。	・ 複素数の考えが理解でき、様々な演算ができる。	・ 複素数の考えについて意欲的に取り組もうとしている。
評価方法	・ 小テスト ・ 定期考査	・ 提出物 ・ 定期考査	・ 振り返りシートの記述 ・ 授業態度
図形と方程式	・ 円の方程式について理解できる。	・ 不等式の表す領域を図示できる。	・ 図形を方程式で表すことに意欲的に取り組もうとしている。
評価方法	・ 小テスト ・ 定期考査	・ 提出物 ・ 定期考査	・ 振り返りシートの記述 ・ 授業態度

三角関数	・ 拡張された角の三角比の値を求めることができる。	・ 加法定理について理解できる。	・ 日常にある三角関数について意欲的に学ぼうとしている。
評価方法	・ 小テスト ・ 定期考査	・ 提出物 ・ 定期考査	・ 振り返りシートの記述 ・ 授業態度
指数関数・対数関数	・ 指数を対数で表すことができる。	・ 指数関数と対数関数それぞれのグラフについて理解できる。	・ 日常にある指数関数と対数関数について意欲的に学ぼうとしている。
評価方法	・ 小テスト ・ 定期考査	・ 提出物 ・ 定期考査	・ 振り返りシートの記述 ・ 授業態度
微分法と積分法	・ 微分法について理解できる。	・ 微分法を用いてグラフをかき、積分法を用いて面積を求めることができる。	・ 微分法と積分法について意欲的に学ぼうとしている。
評価方法	・ 小テスト ・ 定期考査	・ 提出物 ・ 定期考査	・ 振り返りシートの記述 ・ 授業態度
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	理科	科 目	生物	単位数	4
学 年	3	教科書	生物（実教出版）		
学 科	全学科（選択）	副教材	生物エブリィーノート 授業のまとめ（実教出版）		

学習目標	① 生物や生物現象に対する探究心を高めます。 ② 目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する態度を育てます。 ③ 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成します。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 生物の進化	・生命の起源に関する仮説について学習します。 ・生物の系統と進化について学習します。
	2 生命現象と物質	・生命現象とタンパク質について学習します。 ・代謝とエネルギーの関係について学習します。
2	3 遺伝情報の発現と発生	・遺伝情報とその発現、発生について学習します。 ・バイオテクノロジーとその応用について学習します。
	4 生物の環境応答	・動物の反応と行動について学習します。 ・植物の成長と環境応答について学習します。
3	5 生態と環境	・個体群と生物群集について学習します。 ・生態系、物質循環とエネルギーの流れについて学習します。
課題	① 予習・復習…教科書を用いて予習・復習します。 ② 夏休み課題…自由研究を実施し、結果を整理し、レポートにまとめます。 ③ 冬休み課題…科学の内容に関係のあるニュースなどをレポートにまとめます。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 生物の進化	・生命の誕生に関する仮説について理解している。 ・系統に基づく分類法が最も妥当性があるものとして承認されているという事実を理解している。	・地質時代における生物の変遷を、化石にもとに考察できる。 ・霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、表現することができる。	・資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとする。 ・生物分類の必要性を理解しようとする。
評価方法	・実験操作 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・実験への取組 ・プリントの記述内容
2 生命現象と物質	・タンパク質の性質や働きを立体構造と関連づけて理解している。 ・エネルギーの利用に際して、ATPがエネルギーの通貨として働いていることを理解している。	・生命現象がタンパク質の多様性および特異性に基づいていることを科学的に考察できる。 ・バイオテクノロジーの発達が人類の生活を豊かにする可能性があることを理解している。	・タンパク質や核酸の働きが生物現象の基本になっていることを理解しようとする。 ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。

評価方法	・実験操作 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・実験への取組 ・プリントの記述内容
3 遺伝情報の発現と発生	・動物の配偶子のでき方を理解している。 ・発生のしくみについて、実験によって、そのしくみが次第に明らかになってきた過程を理解している。	・生殖細胞がつくられる過程と意義を科学的に考察できる。 ・発生の過程が、ヒトをはじめとした多くの生物に共通するものであることを実総合的に考察し、表現することができる。	・動物の発生としくみについて形態形成運動や誘導などの働きによって複雑な体の作りができていって行く過程を理解しようとする。 ・遺伝子を扱う技術の原理と方法を理解しようとする。
評価方法	・実験操作 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・実験への取組 ・プリントの記述内容
4 生物の環境応答	・中枢神経系の働きの学習を通して、脊ついで動物のからだの巧妙に調節されていることを理解している。 ・植物の場合は、植物ホルモンの働きなどによって、環境に対する反応や調節が行われることを具体的に理解している。	・骨格筋が収縮するしくみを理解し、筋収縮に必要なエネルギーが供給される方法について考察できる。 ・被子植物が環境に応答する仕組みについて理解し、科学的に判断できる。	・動物の行動は、刺激の受容から始まるしくみによって成立していることを関心をもって理解しようとする。 ・植物の反応や調節が植物ホルモンによって行われていることを理解し、身につけようとする。
評価方法	・実験操作 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・実験への取組 ・プリントの記述内容
5 生態と環境	・生物の集団を個体群としてとらえ、その現象や法則性を理解している。 ・生態系の構造や働きと、その平衡のしくみを理解している。	・異なる2種以上の個体群間の関係から形成されている生物群集の構造や働きとその変動を明らかにできる。 ・生態系の構造や働きを、物質循環・エネルギーの流れの観点から考察することができる。	・これまでに学習した内容から、人類の活動と自然破壊の関連性について考察し、自然保護・環境保全の意義を実感として理解しようとするとともに、主体的に行動できるような意識をもつ。
評価方法	・実験操作 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・小テスト ・定期考査	・発言内容 ・実験への取組 ・プリントの記述内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	理科	科 目	化学	単位数	4
学 年	3	教科書	化学（実教出版）		
学 科	全学科（選択）	副教材	アクセスノート化学（実教出版）		

学習目標	① 化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を育成します。 ② 見通しをもって観察・実験などを行い、化学的な事物・現象を確認・理解します。 ③ 自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成します。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 物質の状態と平衡	・状態の平衡と粒子の熱運動について学習します。 ・溶解のしくみやコロイド溶液について学習します。
	2 物質の変化と平衡	・電離や電気分解のしくみについて学習します。 ・化学平衡の概念、原理、法則を学習します。
2	3 無機物質	・金属元素や非金属元素の単体、化合物について学習します。 ・人間生活で利用されている無機物質の例について学習します。
	4 有機化合物	・有機化合物の特徴と分類について学習します。 ・脂肪族化合物、芳香族化合物の構造や性質について学習します。
3	5 高分子化合物	・高分子化合物の構造と性質について学習についてします。 ・人間生活で利用されている高分子化合物の例を学習します。
課題	① 予習・復習…教科書を用いて予習・復習します。 ② 夏休み課題…自由研究を実施し、結果を整理し、レポートにまとめます。 ③ 冬休み課題…科学の内容に関係のある新聞などの記事をレポートにまとめます。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 物質の状態と平衡	・状態の平衡と粒子の熱運動について、基本的な原理や知識を理解している。 ・化学反応と熱エネルギーの関係について、基本的概念を理解している。	・沸点上昇などの溶液の性質について理解し、それをもとにした計算することができる。 ・結晶構造を理解し、モデルで表現することができる。	・気体の状態方程式の導き方と計算方法について探究しようとする。 ・コロイド溶液について、その性質やふるまいに関心を持ち、意欲的に探究しようとする。
評価方法	・ノートの記述 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記述 ・演習への取組 ・発表内容
2 物質の変化と平衡	・化学平衡の概念、原理、法則を理解し、酸・塩基と関連付けることができる。 ・反応速度に影響する条件を理解し、その知識	・化学反応と電気エネルギーの関係を理解し、酸化還元反応と関連させて論理的に考えることができる。 ・電離平衡について、酸・	・反応の速さに関する事象・現象に関心を持ち、反応のしくみを探究しようとする。 ・化学平衡における移動、利用について探究しよ

	をもとに反応のしくみを理解している。	塩基の概念と共に理解し、説明することができる。	うとする。
評価方法	・実験操作 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記述 ・実験への取組 ・発表内容
3 無機物質	・周期表における各元素の配置、性質を理解している。 ・無機物質の製法、性質、反応性について理解し、知識を身につけている。	・金属元素の単体、化合物の性質や反応を論理的に類推、考察することができる。 ・実験を探究的に行い、考察することができる。	・周期表における元素の配置に興味を持ち、各元素の分類を探究しようとする。 ・人間生活に利用されている無機物質について興味を持ち、その利用のされ方を積極的に探究しようとする。
評価方法	・実験操作 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記述 ・実験への取組 ・発表内容
4 有機化合物	・有機化合物の性質と反応に関する概念や原理、法則を理解し、知識を身につけている。 ・実験において、適切な実験操作を身に付けている。	・有機化合物について、代表的な物質の構造とその性質、利用例を理解することができる。 ・実験を探究的に行い、考察することができる。	・有機化合物の特徴と分類、構造決定について探究しようとする。 ・人間生活に利用されている有機化合物について興味を持ち、その利用のされ方を積極的に探究しようとする。
評価方法	・実験操作 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記述 ・実験への取組 ・発表内容
5 高分子化合物	・高分子化合物の性質と反応に関する概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・高分子化合物の性質と反応に関する概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	・高分子化合物について、代表的な物質の構造とその性質、存在例を理解することができる。 ・実験を探究的に行い、考察することができる。	・高分子化合物の分類と特徴について探究しようとする。 ・人間生活に利用されている高分子化合物について興味を持ち、その利用のされ方を積極的に探究しようとする。
評価方法	・ノートの記述 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記述 ・発表内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。 学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	理科	科 目	物理	単位数	4
学 年	3	教科書	物理（実教出版）		
学 科	環境開発科（選択）	副教材	ステップアップノート 物理 新訂版（啓林館）		

学習目標	① 物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を育成します。 ② 見通しをもって観察・実験などを行い、物理的な事物・現象を確認・理解します。 ③ 自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成します。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 さまざまな運動	・さまざまな運動の表し方や働く力について学習します。 ・さまざまな運動における公式や法則について学習します。
	2 波	・水面波、音、光などの波動現象について学習します。 ・水面波、音、光などの伝わり方や性質について学習します。
2	3 電気と磁気	・電気や磁気の現象について学習します。 ・電気や磁気の規則性や関係性を学習します。
	4 原子	・電子、原子及び原子核に関する現象について学習します。 ・電子と光、原子と原子核における規則性や関係性を学習します。
3	5 物理学が築く未来	・物理学の成果がさまざまな分野で利用され、未来を築く新しい科学技術の基盤となっていることを学習します。
課題	① 予習・復習…教科書を用いて予習・復習します。 ② 夏休み課題…自由研究を実施し、結果を整理し、レポートにまとめます。 ③ 冬休み課題…科学の内容に関係のある新聞などの記事をレポートにまとめます。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 さまざまな運動	・さまざまな運動について、基本的な原理や知識を理解している。 ・さまざまな運動とその現象について、基本的概念を理解している。	・さまざまな運動について理解し、それをもとにした計算をすることができる。 ・さまざまな運動の現象について理解し、表現することができる。	・さまざまな運動の方程式の導き方と計算方法について探究しようとする。 ・さまざまな運動について、その現象や関係性に関心を持ち、意欲的に探究しようとする。
評価方法	・ノートの記述 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記述 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記述 ・実験への取組 ・発表内容
2 波	・波の概念、原理、法則を理解し、さまざまな現象と関連付けることができる。 ・波に影響する条件を理解し、その知識をもと	・波、音及び光の関係を理解し、それぞれの現象と関連させて論理的に考えることができる。 ・波、音及び光について、その概念と共に理解	・波、音及び光に関する事象・現象に関心を持ち、そのしくみを探究しようとする。 ・波、音及び光の性質について探究しようとする。

	に波の仕組みを理解している。	し、説明することができる。	る。
評価方法	・ノートの記事 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記事 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記事 ・実験への取組 ・発表内容
3 電気と磁気	・電気と磁気における現象について理解している。 ・電気と磁気について、原理・法則を理解している。	・電気や磁気におけるさまざまな現象を論理的に説明することができる。 ・電気や磁気における原理・法則を理解し、表現することができる。	・電気や磁気について、日常生活や社会と関連付けながら、探究しようとする。 ・電気と電流、電流と磁界における規則性や関係性を探究しようとする。
評価方法	・ノートの記事 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記事 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記事 ・実験への取組 ・発表内容
4 原子	・電子、原子及び原子核に関する現象について理解している。 ・電子と光、原子と原子核における規則性や関係性を理解している。	・電子、原子及び原子核に関する表し方を理解し、表現することができる。 ・電子と光、原子と原子核における規則性や関係性を見出し、表現することができる。	・電子や光、原子と原子核における規則性や関係性を探究しようとする。 ・原子核の構成、原子核の崩壊及び核反応について探究しようとする。
評価方法	・ノートの記事 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記事 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記事 ・実験への取組 ・発表内容
5 物理学が築く未来	・物理学の成果がさまざまな分野で利用されていることを理解している。 ・物理学の成果が未来を築く新しい科学技術の基盤となっていることを理解している。	・相対性理論などが現在の物理学に影響を及ぼしていることを説明することができる。 ・量子学と物理学との関係性を表現することができる。	・シミュレーション科学とデータ科学が現在の物理学に与えている影響を探究しようとする。 ・新規材料と物理との関わりを探究しようとする。
評価方法	・ノートの記事 ・問題集 ・定期考査	・プリントの記事 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記事 ・実験への取組 ・発表内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			